



義務教育学校の特色「乗り入れ授業」



小中一貫教育のねらいベスト3

第1位 中1ギャップの緩和など生徒指導上の成果を上げる

第2位 学習指導上の成果を上げる

第3位 9年間を通して児童生徒を育てると
いう教職員の意識改革

(文部科学省：小中一貫教育実施市町村のアンケートより)

上記にあるような、小中一貫教育のねらいなどを達成するために、本校では「乗り入れ授業」を行っています。「乗り入れ授業」とは、中学校（後期課程）の教員が小学校（前期課程）で、小学校（前期課程）の教員が中学校（後期課程）で行う授業です。

「乗り入れ授業」をしている先生たちの声

中学校の教員にとって、小学校の先生方の声のかけ方は、とても参考になります。わかりやすい言葉で伝えるということの大切さを学びました。

小学校でどのくらいの内容を学習しているのかを詳しく知ることができて、7～9年生の授業に生かせるようになりました。

算数や数学では、教材の系統性を確認できます。6年生の「並べ方・組み合わせ」が8年生の「確率」につながるとか、「帯分数のかけ算」が実は9年生の「多項式」の計算を使うとか、教員としても新鮮な発見が多々あります。

中学で指導する内容が、小学校ではどのように教えられているのか具体的に分かりました。自身のこれまでの経験を生かしつつ、特に教材研究や教材の扱いに慣れている小学校の知見を取り入れることは、大変自身のためになりました。

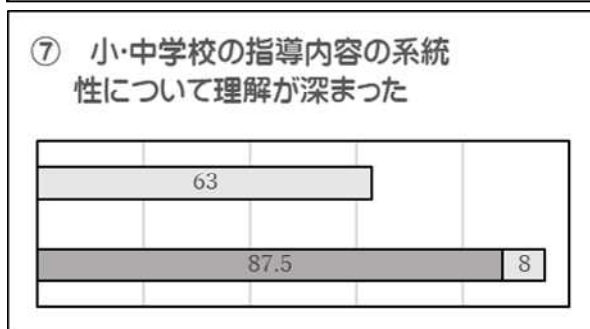
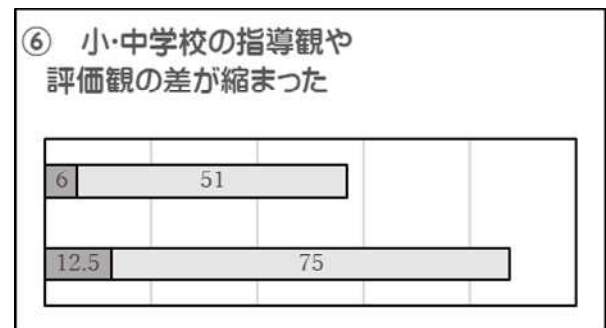
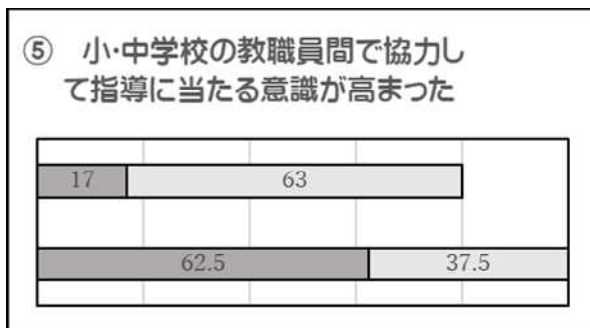
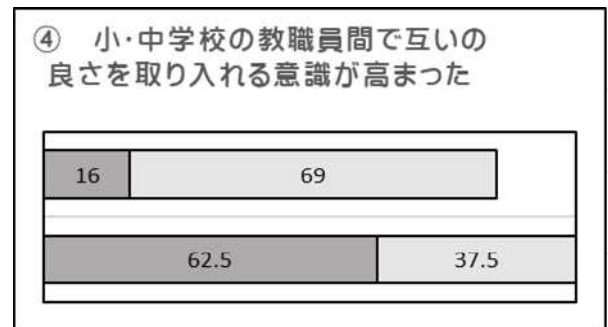
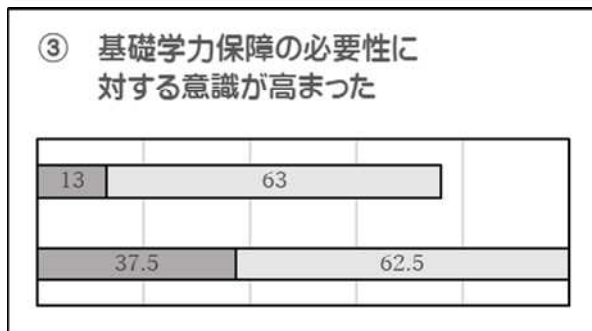
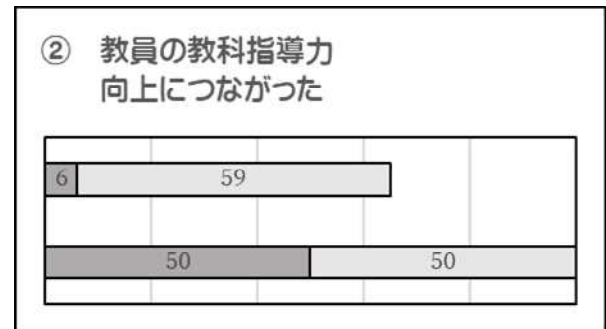
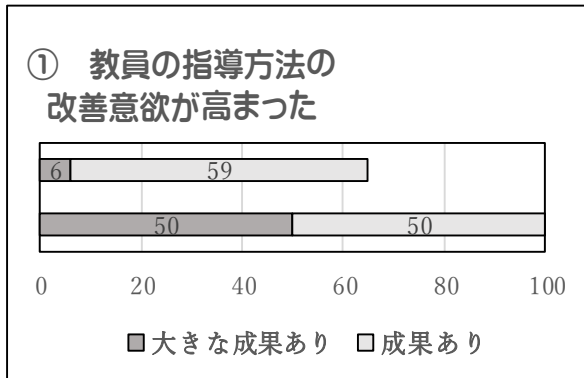
3、4年生の年頃の子どもたちは、身につくことが早いです。したがって、前期課程で正しい動きを授業の中で教えられることが、保健体育の乗り入れにはとても良いです。

小学校の授業では、中学校での英語の学習に今の学習がどう生きるのか把握しながら授業ができます。だから、何のフレーズをどの場面で言うようにしたら良いかが明確にわかり、系統性のある授業がしやすいです。

系統性を踏まえる機会が多くなりました。上の学年でどのようなところでつまずきが見られるのかを、日常会話の中で知ることができるので、下の学年での指導に生かします。義務教育に小中という壁がなく、9年間で指導するという感覚になります。

全国調査との比較

下のグラフは、小中一貫教育についての実態調査です。全国のデータと本校（乗り入れ授業担当教員）とを比較してみました。数字の単位は%です。いずれも上が全国、下が本校です。



調査の結果、特に、小・中学校の系統性の理解が深まり、互いの良さを取り入れたり、協力して指導に当たったりする意識が高まったと強く感じていることがわかりました。教員の教科指導力アップは、子どもたちの学力向上につながるものと信じています。小・中の教員が、互いに授業を見やすい環境もあります。これからも、子どもたちのために、研修を積み重ね、力量を高めていきます。

*お便りに対してのご意見・ご感想等がありましたら、連絡帳などを通していただくとありがたいです。